

平成27年度全国保健師長会九州ブロック研修会

開催日：平成27年9月19日（土）10：00～15：30 場所：宮崎県電ホール

シルバーウィークの初日にも関わらず、九州各県10支部から85名の参加がありました。今年は、「保健師の人材育成とリーダーの役割」をテーマに開催し、人材育成とこれからのリーダーとしての役割を考える機会となりました。

午前中は、公立大学法人大分県立看護科学大学学長の村嶋幸代氏に「これからの保健師活動のための人材育成とリーダーの役割」と題して講演をいただきました。講演の内容は、「リーダーはどうあるべきか」、「地域包括ケアシステム」「医療介護総合確保推進法」「地域保健指針と保健師活動」「保健師教育課程「保健師に係る研修」等、たくさんの資料を準備していただきました。1時間45分の講演時間では足りない内容でした。印象に残ったことは、学び方を学んでいけば社会の変化に対応できる。これが人材育成につながり、どのように人材育成するかで、その組織の明日が決まってくる。リーダーは、各時代で決断・対処してきたと話され、リーダーとしての認識と学び続ける姿勢の大切さを改めて考えさせられました。2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築では、保健師は、行政に働く看護職として、「看護職の特性を生かし」かつ「公務員」として両方の利点を活用して、地域（住民）のために尽力する必要がある・・・それが、保健師が生き残る道でもあると、保健師が考えていかなければならないことをしめされました。

午後は、研究報告から始まり「ソーシャルキャピタルの醸成や活用にかかる保健師活動のあり方に関する研究」を横浜市総務局人事部職員健康課 小西美香子氏からわかりやすく報告していただきました。「保健師がソーシャルキャピタルの醸成にかかる力量を形成するためには、日常の活動をまとめ発表する。活動はまとめるものという風土を作っていくことが重要である」と説明され、ソーシャルキャピタルは人材育成として指導していくことの大切さを学びました。その後、「人材育成」の取り組みの実践報告に移りました。福岡県の取り組みについては、鎌田会長から報告していただきました。平成24年度に作成した「福岡県地域保健従事者育成指針」に基づき現任教育を推進していること、卒業時の到達目標を常に意識しながら新任保健師にあたっていること等の報告がありました。次に、小林保健所田中美幸氏からは、宮崎県の保健師現任教育が5年目を迎ええてきた課題とこれからの人材育成の取り組みについて報告がありました。その後、グループワークを行い、保健師活動を推進するために～それぞれのキャリアでやれること・やるべきこと～をテーマに、宮崎県立看護大学教授 小野美奈子氏をコーディネーターに進めました。村嶋幸代先生からそれぞれの県で人材育成に取り組み長所・短所があると思うのでそれを皆で並べて自分の地域にいかしていけたらいいのではないかと助言をいただきました。

終わりに、九州ブロック理事（鹿児島県）堀之内広子氏から次期開催県を代表してご挨拶をいただき、閉会しました。

記：宮崎県支部長 又木真由美 九州ブロック理事 木添 茂子

